



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑應答. 地球 1930, 14(2): 159-160

ISSUE DATE:

1930-08-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183789>

RIGHT:

1. The tremendous expansion of population in the United States is a matter of general knowledge. It may be possible to postpone indefinitely the time when population over the whole earth presses on subsistence in accordance with the doctrine of Malthus. A variety of developments, discoveries and devices can serve to this deferment. Extension of the cultivable areas of the temperate lands through hybridizing, and through the discovery of drought-resisting and cold-resisting and short-season varieties of wheat, and other grains; in general the use of a wide variety of scientific, agricultural practices and expedients to increase yields, without involving more human labour, will be one way to insure the postponement.

2. It was interesting to watch, on every little islet and promontory under which we passed, even the same details of glaciation so familiar along the margin of our Scottish fjords. The rocks, smoothed into flowing lines, slip sharply and cleanly into the water, and are well grooved and striated.

和文英譯

一、ペルファストは愛蘭最大の都會にして、亚麻製造の工業

の外にも若干の工業がある。ペルファストの給水は水質の頗る清淨なる爲めに特に亚麻の漂白に適す。又た世界主要造船市の一となつて、オリンピックやブリタニックの如き巨大の航洋船を造つたハーランド・ウオルフ商會 Messrs Harland and Wolff の大船渠がある。

二、氣節風の降雨は滿洲に廣がり、支那本部と同種の穀物を生産し、北支那から急激に植民されてゐる。

質疑應答

問 濟南の地理的事實

答 濟南は東西二百四十哩に亘る膠濟鐵路と南北六百三十一哩の津浦鐵路との交叉點に位し、膠濟線によりて周村、張店、青州、濰縣を経て青島に出で、津浦線によりて北は德州、泊頭鎮を経て天津に至り、南は泰安、大汶口、滕縣、をへて浦口に至り、更に滄寧鐵路を経て上海に通ず、而して黄河の水運は漢口、碼頭を経て上流は河南省東部に、下流利津地方に通じ、又小清河の水運によりて東流水黄臺橋碼頭から下流は羊角溝に於て渤海に出られる、陸路馬車によりて東は周村、濰縣を経て芝罘に通ずる芝罘街道があり、北は武定に通じ、西は高唐、夏津を経て臨清に至り、更に河北南部の諸邑に通ずる臨清街道があり、東昌街道があり、又南は津浦線に沿ひ泰安、大汶口をへて濟寧に至り曹州に出づる濟寧曹州街道がある、自動車もそれに動き出したから所謂四通八達の要衝であり、

貨物の集散自ら大となり、今や北支那に於ては、天津についで一大市場となつた。

其の商圏は西部山東は勿論、黃河流域及河北南部山西の一部に及び北は泊頭鎮を以て天津の商圏と交叉し、南は徐州蚌埠に於て上海の商範圍と接觸し一年の貿易額一億五千萬元に上る、もし膠濟鐵路豫定延長線たる濟南、道口鎮間、或は濟南彰德間の鐵道が出来上つて北漢線と聯絡し山西に延びるに至らば天津、漢口二大貿易圏の中央を貫通して、山西陝西兩省の寶庫を自由にするやうになり、黃河流域の一大中心と化し愈以て青島港貿易の根源となつて賑はうであらう。

今この市場に集散する貨物を列舉すれば輸出物としては、棉花麥粉各二十萬元に達し落花生八萬噸、桐材一萬噸、生牛三萬頭、鷄卵五十萬箱、穀六十萬袋、荷落生油五千噸、豆二萬噸、棗五千噸、牛皮、牛骨、銅塊等を算し、輸入品には綿糸十萬俵、綿布八千噸、烟草四萬箱、小麥七萬噸、茶三千噸

砂糖十五萬俵、五千噸、高粱一萬噸、石炭十八萬噸、鐵及鐵製品五千噸、木材一萬噸、染料一千噸、鑄造材料四千噸、輸出入を合せて一億五千萬元の取引がある。

但しこの中濟南をへて青島から輸出される山東桐材は一年に一萬噸四百萬元と記したが、民國十四年以來兵馬の絶間なく課税の過重なると、同十五年に隴海線が開通した結果河南省の桐材はすべて海州に出ることになつてそれから青島へまわるものもあるやうになつた。

桐材はすべて日本の下駄材とするので邦人輸出業者は原產地へ邦人をやつて立木目通を鑑定し、大小によつて目算價格を定める、その結果長さ六尺五寸經一寸九角を一才と定めて取引するやうになつた、この事は些事のやうであるが、日本の尺が支那の桐を支配するに至つた面白い事實であると信じて、筆者は尺に關して興味をもつから特にこのことを一言して参考としておきたい。(藤田)

地球第十四卷第一號正誤

七頁第八行目 誤 砒酸 正 硫酸

十六頁第三行目 採取 採取

十七頁第三行目 増減 増加